



医療経営士ニュース | これからの医療現場を担う経営人材のための機関紙

MMS NEWS

2025 10 月号
Vol.176
毎月1回発行(通巻176号)
編集:日本医療企画

一般社団法人日本医療経営実践協会 〒104-0042 東京都中央区入船3-8-7 ザ・ロワイヤルビル5階 TEL.03-3553-2906 http://www.JMMPA.jp/

第14回「全国医療経営士実践研究大会」神奈川大会 演題発表登壇者決定!

医療経営士による演題発表が 医療の経営基盤確立への道標に

過去最多の21名が登壇する第14回「全国医療経営士実践研究大会」神奈川大会の医療経営士による演題発表。審査委員長を務める吉長成恭氏(日本医療経営実践協会理事)に、今大会への想いを伺った。

全国大会開催を実現させた 神奈川研究会の熱意

第14回「全国医療経営士実践研究大会」神奈川大会の開催がいよいよ間近となりました。今回の大会テーマは、「医療経営士の原点から考える未来—強固な経営基盤を確立させる戦略的マネジメント—」です。

大会のプログラムのなかには、関東支部神奈川研究会によるディスカッションが予定されています。神奈川研究会は以前から「自分



本大会の審査委員長を務める吉長成恭氏

たちの地域で全国大会を開催したい」という想いをもち、協会にも声を届けていただいておりますが、ようやくその気持ちに応えることができました。

同研究会では、この全国大会に合わせて、5月から経営基盤の要素であるヒト・モノ・カネをそれぞれテーマとする研究会を開催しており、その試みも大変意義のあるものです。全国にある自主研究会の活動と全国大会がしっかりと連動していくことで、さまざまな相乗効果も期待でき、医療経営士活動の新たなモデルとなるのではないのでしょうか。医療経営士による自主研究会として常に先頭を走ってきた神奈川研究会の熱意と姿勢に、改めて敬意を表したいと思います。

医療経営士の取り組みが わが国の医療を動かす

私が審査委員長を務めさせていたたく医療経営士による演題発表には、今回過去最多の21名が登壇します。審査については5つの審査基準(表)に基づいて行います。発表される皆さんのレベルが年々高くなっており、特にプレゼンの完成度ではほぼ差がなくなってきていますが、そうしたなかでも、やはりなぜその取り組みを行ったのかという発想のユニークさや創造性、実際に進めていくなかで果たした役割など、皆さんの発表をしっかりと受け止めたうえで審査してまいります。会場に参加される皆さんも、ぜひ一人ひとりの発表から新たな学びを得て、自身の職場での実践につなげていただければと願っています。

演題発表は会場のなかで終わらせるものではありません。医療は公的な分野で

表 第14回「全国医療経営士実践研究大会」神奈川大会 演題発表審査基準

- ① プレゼンテーションの完成度
- ② 実現の可能性、導入のしやすさ(汎用性)
- ③ リーダーシップ、実行力・完遂力
- ④ 改善の効果、インパクト(影響力)の大きさ
- ⑤ ユニークさ、創造性、イノベーションの度合い

第14回 全国医療経営士実践研究大会 神奈川大会

大会テーマ

医療経営士の原点から考える未来

— 強固な経営基盤を確立させる戦略的マネジメント

開催日

2025年
11月22日(土)
23日(日)

大会運営委員長 | 三角隆彦 | 社会福祉法人恩賜財団済生会支部神奈川県済生会横浜市東部病院院長

会場 | ステーションコンファレンス川崎

大会特設サイトより
参加申込受付中!



T O P I C S | 全国大会に関東支部神奈川研究会が登壇

自主研究会の可能性を広げる活動が 全国に波及していくことを期待

全国大会の神奈川大会招致に尽力した関東支部神奈川研究会。今大会では神奈川研究会の幹事メンバーが登壇する「神奈川研究会・デイスカッション」が設けられている。同プログラムの内容と、神奈川研究会が伝えたいメッセージを紹介する。

全国の自主研究会を導く トップランナー

2014年、地域に根ざした医療経営士の自主研究会として発足した神奈川研究会。2017年2月より医療経営士からなる運営事務局を設け、自主研究会のトップランナーとして活動を継続してきた。

同研究会の世話人代表を務める金城悠貴氏（済生会神奈川県病院経営戦略課長）は、以前から「全国大会を神奈川で開催したい」という想いを持ち、精力的なロビー活動も行ってきた。その声は協会の本部まで届いており、今大会の開催地に神奈川が選ばれた大きな要因となった。自主研究会が全国大会を招致するという初めてのケースであり、非常に大きな意義があると言えるだろう。

今大会では大会2日目、21名の医療経営士の演題発表終了後に「神奈川研究会・デイスカッション」が設けられており、金城氏はじめ

研究会の幹事メンバーがそろって登壇する予定となっている。

テーマは「研究会の在り方を考える」。まずは金城氏が登壇し研究会発足のきっかけから活動の内容、これまでの運営のなかで心掛けてきたことを伝えるという。病院見学会の実施や合宿の開催、本協会が研究費助成を行う「医療経営に関する研究助成」への取り組みなど、その振幅の大きさは「自主研究会でここまでできるのか」という驚きをもたらすだろう。

また同研究会が現在開催している対話形式の研究会の中心についても、詳しい紹介があるはずだ。今年度は7月に「ヒト」、9月に「モノ」をテーマに開催、さらに全国大会の前日となる11月21日（金）には「カネ」を取り上げる。ヒト・モノ・カネはもっとも基本的な経営資源であり、経営基盤の確立に不可欠な要素。今年の全国大会のテーマが「医療経営士の原点から考える

未来——強固な経営基盤を確立させる戦略的マネジメント」と決まった春から、研究会のテーマと連動して全国大会につながる流れを構築してきた。全国大会に参加される皆さまには、ぜひ大会前日の神奈川研究会への参加も合わせて検討していただきたい。

活動の意義を伝えることで 自主研究会の設立を促す

さらに幹事のメンバーからはこれまでの活動を通してどのようなことを得たのか、自分にとってどのような影響があったのかなど、それぞれの経験を伝えることになっている。研究会に参加することで新たな情報を得て、自分自身のレベルアップになる、というのは当然考えられる。しかし、自分たちで研究会を立ち上げ、活動を継続することの裏側にはそれだけではないモチベーションがあるのではないだろうか。その魅力が伝わることで、自主研究会活動への関心が高まることが期待される。

金城氏は「神奈川研究会として登壇させてもらうので、自

分たちの活動内容を伝えたいという気持ちがあるのはもちろんですが、自主研究会を運営していくことの楽しさややりがいを感じてもらって、『自分たちもやってみよう』と思って後に続く方が全国から出てきてくれることを期待したいです」と語る。「そういう方に対して、サポート等が必要であればできる限りやっていきたいし、自分たちのノウハウを伝えていくことも役割の一つだと思っています」という金城氏。全国大会に参加される皆さまには、ぜひその想いを受け止め、自らの手で自主研究会をつくるきっかけとしていただきたい。

日本医療経営実践協会 関東支部 第59回 神奈川研究会 開催のお知らせ



経営課題の未来を考える

—第3章— カネ編

日時：2025年11月21日（金）19:00～21:00
 場所：かながわ労働プラザ 特別会議室 & オンライン
 参加費：現地参加 協会会員 1,000円 非会員 2,000円
 オンライン参加 会員/非会員 3,000円
 問合せ：神奈川研究会 運営事務局
 E-mail：mmsoc.kanagawa@gmail.com

全国大会と合わせ、前日に行われる神奈川研究会にもぜひご参加いただきたい。詳細は4面「PICK UP 研究会」をご参照ください

最新医療経営

最新情報を踏まえ新たな病院像を描く「経営の時代」の羅針盤
PHASE3
 フェーズ・スリー

11月号
 好評発売中!!

特集

労働力不足に立ち向かう病院 外国人材雇用の現在地

今後、人口減少が社会経済全般に多大な影響を及ぼすことが見込まれるなか、病院経営においては必要な人材をどのように確保していくかが大きな課題となっている。日本病院会会長を務める相澤孝夫氏は、今後の病院経営をどうしていくか、今こそ真剣に考える必要があると警鐘を鳴らす。本特集では、外国人材を雇用してこの難局に立ち向かう事例を取り上げ、病院の持続可能性を考察する。

詳細・ご購入は
 コチラ



第30回みやぎ仙台ネットワーク

令和8年度診療報酬改定に向けて 今考えるべき病院経営のあり方とは



日本医療経営実践協会東北支部みやぎ仙台ネットワークは10月17日(金)、オンラインで30回目となる研究会を開催した。講師には千葉大学医学部附属病院副院長、病院経営管理センター長でちば医経塾塾長も務める井上貴裕氏を招き、「令和8年度診療報酬改定 進行中の議論を踏まえ病院経営をどう考えるか」と題した講演を行った。

令和8年度診療報酬改定は 急性期に比重が置かれたものに？

東北支部の医療経営士自主研究会であるみやぎ仙台ネットワークは、医療法人松田会事務部部長の佐竹直也氏、医療法人徳会真壁病院事務長の小野寺和清氏らが中心となって2020年に設立。以来、定期的な研究会活動を継続してきた。節目となる第30回研究会では来年度の診療報酬改定をテーマに据え、講師には同ネットワークの研究会では2度目の登壇となる井上貴裕氏が招かれた。

井上氏は冒頭、「各団体からいろいろな要望は上がっているが、改定率が大きなプラスになるということは考えづらい」と話し、その前提に基づき、どこが手厚くなるのかを考えていかなければならないと強調。そのうえで、現在中協協で進んでいる議論において、厚生労働省が救急車の搬送台数が多い、つまり規模の大きな高度急性期病院の業績が悪いというデータを出してきている点に注目。「都市部にある急性期病院の業績が非常に悪くなっている。これはどうしても高コスト体質になって物価高騰のあおりを受けやすいという背景がある。診療報酬上、『立地が都市部かどうか』で評価するのは難しいが、ある程度急性期に比重が置かれる改定になるというのが客観的な見方ではないか」と見通しを述べた。

急性期については2022年度改定で新設され、24年度に2区分となった急性期充実体制加算を取り上げ、「それなりのハードルは設けてあるが、算定する医療機関が厚労省の想定と比べて明らかに増えすぎているのではないかと指摘し、次改定で3段階の区分となるのではないかと予測。現状の施設基準について、「休日加算1、時間外加算1および深夜加算1の施設基準の届出を行っていることが望ましい」となっている点を挙げ、「ここの届出の有無で分けるとなると少し厳しいかなとは思いますが、医療従事者の負担軽減という観点からも重視される可能性はあるのではないかとした。さらに総合入院体制加算との一本化もあり得るのではないかと述べた。

明確なビジョンに基づく経営には 医療経営士の活躍が不可欠

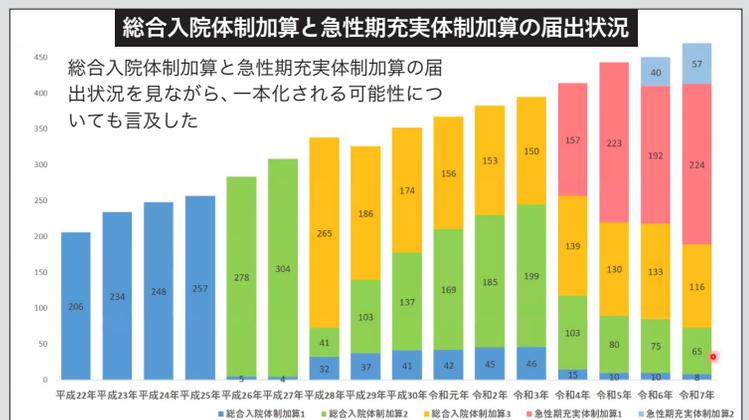
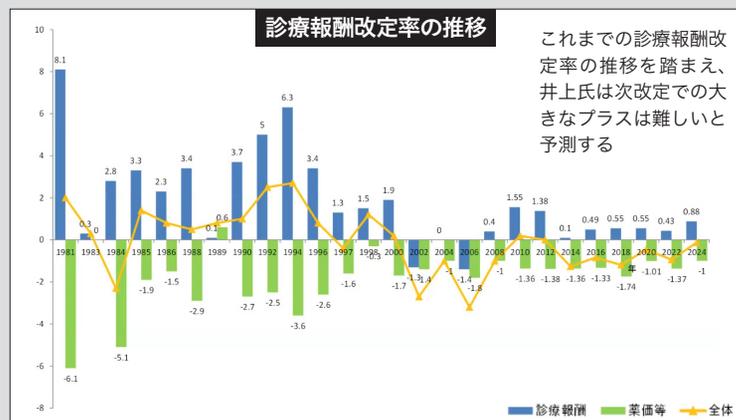
その後はさまざまなオープンデータを用いながら、医療機関の開設種別、機能別等の現状と、そこから想定できる今後の展開について解説。宮城県内の医療機関についても100床当たりの全身麻酔件数、手術件数、救急車搬送入院件数等のデータを紐解きながら、県内の医療提供体制の在り方について述べ、「周りの病院が何を考えてどう行動しているのかを客観的に捉えるためにも、こういった公表資料をきちんと見ることが大切だ」とデータ

の重要性を訴えた。

最後に、井上氏は病院経営について、自院の中長期的なビジョンがあいまいなまま、とりあえず診療報酬改定で高い点数がついたところに行くような対応では目指していたビジョンと大きなギャップができる」と述べ、「『なりたい姿』と地域医療のあり方を見据えた『なるべき姿』、そして現状を踏まえた『なれる姿』から総合的に判断して『目指すべき姿』を明確にした後、これを達成するための戦略を策定することが求められる」と強調。そのためには医療経営士の活躍が重要になると、参加者へメッセージを送った。

講演の後は参加者との質疑応答が行われた。回復期リハビリテーション病棟の方向性についての質問には、「おそらく厳しくなっていく」とし、「今すぐというわけではないが、対象となる患者が中長期的には減少するのではないかと回答。24年度改定で新設されたりハビリテーション・栄養・口腔連携体制加算により、急性期においても早期のリハビリを行うインセンティブがついたこともあり、回復期の存在感が薄れていくのではないかと見通しを述べた。

みやぎ仙台ネットワークでは、今後も隔月で研究会を開催していく予定。同ネットワークのSNSでも随時情報を提供しているので、ぜひチェックしていただきたい。



事務局掲示板

第14回「全国大会」神奈川大会のポスターが完成 掲示していただける会員の方を募集中！

第14回「全国医療経営士実践研究大会」神奈川大会のポスター（B2サイズ）が出来上がりました。こちらを掲示していただける会員の方を募集します。ご希望の方は「全国大会ポスター希望」と件名をつけ、お名前、認定登録番号、送付先住所、電話番号、必要枚数を明記の上、下記メールアドレスまでご連絡ください。ポスターは順次お送りさせていただきます。



【ポスターのお申し込み】
E-mail : info@jmmpa.jp

医療経営士の所属をPRしよう！ 所属先の掲載ご協力をお願い

当協会のホームページでは、会員の皆さまから掲載の同意をいただいて、医療経営士が所属する医療機関・企業名を公開しています。

医療機関の抱えるさまざまな経営課題を迅速かつ的確に解決できる能力を持った医療経営士の所属先を公開する

ことで、経営力を持った医療機関であること、医療機関のマネジメントを支援できる人材を有する企業であることをアピールすることができます。掲載の同意をいただける方は、下記URLからご登録ください。

【ご登録はこちらから】
<http://www.jmmpa.jp/support/cat108>

PICK UP 研究会

第59回神奈川研究会 経営課題の未来を考える —第3章 カネ編—

神奈川研究会では「答えのない問いを問い続ける能力を磨く」ことを目的に、講師を招いての講義スタイルではなく、複数人のパネリストと参加者が対話しながら掘り下げていく研究会を開催しています。2025年度は11月に開催される全国大会のテーマ「医療経営士の原点から考える未来—強固な経営基盤を確立させる戦略的マネジメント」を受け、ヒト・モノ・カネという3つの経営課題について、それぞれの未来がどういったものになるのかを考える研究会を企画。具体的にイメージができそうな10年後の未来を想定し、7月に「ヒト」、9月には「モノ」を議題としてさまざまな意見交換を

行ってきました。11月は「カネ」をテーマとしてディスカッションを行います。病院の経営状況が悪化を続けるなか、診療報酬でどこまでカバーできるのか。人件費も高騰を続けるなかで、そもそも現在の仕組みでこの先10年後はやっていけるのか。カネにまつわる多様な視点からの意見を聞きながら、自分自身の考えを深める機会、ぜひご参加ください。



開催概要

- 日時：2025年11月21日(金) 19:00～21:00
- 場所：かながわ労働プラザ 特別会議室&オンライン
- 参加費：現地参加 会員1,000円/非会員2,000円
オンライン参加 会員・非会員とも3,000円
- 主催：日本医療経営実践協会関東支部 神奈川研究会
- お問い合わせ：神奈川研究会運営事務局 mmssoc.kanagawa@gmail.com

日本医療経営実践協会 支部研究会スケジュール

開催日	開催支部	テーマ	講師
11月6日(木)	北海道	今後の社会保障制度について ～特に医療制度について～	二川一男 氏(元厚生労働省事務次官)
11月20日(木)	関西	“イチ”からわかる 病院経営オンライン塾 第2回「病院の外部環境分析を学ぶ」	古株靖久 氏(病院事業・介護事業アドバイザー/ 医療経営士2級)
11月21日(金)	関東	第59回神奈川研究会 「経営課題の未来を考える —第3章— カネ編」	参加者によるディスカッション形式で開催
11月30日(日)	東海	静岡県東部医療経営勉強会 「わたしたちはどう生きるのか。」	植竹真理 氏(NPO法人幸ハウス) 小林大輔 氏(介護福祉士・介護支援専門員)
12月16日(火)	関東	神奈川研究会「合格者のつどい」 協会および医療経営士についての説明 ほか	青木大介 氏(社会医療法人財団石心会川崎幸病院/ 医療経営士2級)ほか
12月18日(木)	関西	“イチ”からわかる 病院経営オンライン塾 第3回「病院の内部環境分析を学ぶ」	古株靖久 氏(病院事業・介護事業アドバイザー/ 医療経営士2級)
12月20日(土)	東海	静岡県東部医療経営勉強会 「2026年度診療報酬改定 徹底解剖」	森真澄 氏(聖隷沼津病院)

※日程等は変更になる場合があります。詳細は協会ホームページでご確認ください。

新年度からの研修教材として最適！ オンデマンド職員研修講座シリーズ

好評配信中！

日本ヘルスケア
経営学院
公開講座

新入職員研修 ミドルマネジャー研修

WEB講座

講座概要



●講師
石井富美氏
(多摩大学医療・
介護ソリューション
研究所副所長)

【新入職員研修WEB講座(全6回)】
●講義時間… 各回約20分
●受講料… 各回 :1,100円
3回セット :2,750円
全6回セット :4,950円

【ミドルマネジャー研修WEB講座(I/II)】
●講義時間… 講座I:約120分/講座II:約90分
●受講料… 講座I:7,150円/講座II:5,500円/
I・IIセット:11,000円

※講義終了後に内容の理解度が測れる「確認テスト」付き ※受講料はすべて税込



【お問い合わせ先】日本ヘルスケア経営学院 事務局(日本医療企画内) ☎03-3553-2862 <https://hcmi-s.net/>